

## 第2回 三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録

○日 時 令和2年10月30日（金） 19時00分～20時15分

○場 所 南下浦市民センター 講堂

### ○次 第

1 開 会

2 議 事

#### （1）審議事項

議 案4 第1回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録の承認  
について

議 案5 第2回以降の会議録の調製・承認の手順について

議 案6 協議会ニュースの発行について

議 案7 第2号以降の協議会ニュースの発行手順について

#### （2）意見交換

意見交換1 小規模校と標準規模校の比較について

3 事務連絡

4 閉 会

○出席委員（12名）

座長	市川 昌樹	座長職務代理者	五十嵐 徹	委員	宮坂 和彦
委員	鈴木 隆之	委員	君島 孝洋	委員	高橋 伸昌
委員	吉田 貴広	委員	木村 光一	委員	加藤 貴之
委員	松原 誠一	委員	武内 千恵子	委員	中澤 謙介

○事務局（4名）

君島 篤	教育部長	増井 直樹	教育総務課長
矢尾板 昌克	政策部政策課長	長島 正紀	教育総務課 GL

◇ 19時00分 開会 ◇

◇座長 皆様こんばんは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。只今より第2回南下浦地区三浦市学校教育ビジョン地域協議会を開催致します。

早速ですが議事に入りたいと思います。初めに議案第4号「第1回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録の承認について」を議題と致します。

会議録につきましては各委員に事前に確認していただいたものを本日、お配りしました。この内容につきまして、ご質問・ご意見がございましたら、お願い致します。よろしいですか。

(特に発言なし)

なければ、お諮り致します。

「議案第4号 第1回三浦市学校教育ビジョン地域協議会（南下浦地区）会議録の承認について」は原案のとおりとすることにご異議ございませんか。

(「はい」の声あり)

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定致します。

◇座長 続きまして、議案第5号「第2回以降の会議録の調製・承認の手順について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

◇事務局 説明させていただきます。議案第5号の資料をご覧ください。第1回のときと同様に会議録の承認の手順でございます。三浦市学校教育ビジョン地域協議会の会議録の調製・承認について、おおむね次のとおりとすることについて、承認を求めるものでございます。

手順としまして協議会の開催以降、1週間を目途に事務局で原稿を作成致します。次回の協議会の1週間前までに原稿を配布致しまして、内容の確認を各委員の方にしていただきます。その際、修正等ございましたら事務局で直し、次回の協議会でその会議録の承認をしていただく流れになります。調整・承認についての案は以上でございます。

◇座長 ただいま事務局より説明がありましたが、この件につきましてご質問・ご意見がございますか。

(特に発言なし)

なければ、お諮り致します。

「第2回以降の会議録の調製・承認の手順について」は、原案のとおりとすることにご異議ございませんか。

(「はい」の声)

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定致します。

◇座長 続きまして、議案第6号「協議会ニュースの発行について」を議題と致します。  
事務局より説明をお願いします。

◇事務局 第1号三浦市学校教育ビジョン地域協議会ニュースの発行について、まず、皆様にお配りした資料で修正をさせていただいた箇所がございます。  
裏面で委員のお名前が記載されている場所です。三崎地区の伊藤委員の括弧書きの部分を三崎中学校教員、中澤委員は上宮田小学校教員ということで保護者や児童に分かりやすい表示とさせていただきます。  
修正箇所はそちらのみとなります。以上でございます。

◇座長 ただいま事務局より説明がありましたが、この件につきましてご質問・ご意見がございますか。

(特に発言なし)

なければ、お諮り致します。

◇座長 「協議会ニュースの発行について」は、原案のとおりとすることにご異議ございませんか。

(「はい」の声)

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定致します。

◇座長 続きまして、議案第7号「第2号以降の協議会ニュースの発行手順について」を議題と致します。  
事務局より説明をお願いします。

◇事務局 議案第7号をご覧ください。「第2号以降の協議会ニュースの発行手順について」でございます。協議会ニュースにつきましては地域協議会開催後、1週間を目途に原稿を事務局で作成致します。その後、地域協議会開催後2週間を目途に座長と事務局で責任校正ということでお願いしたいと思います。こちらは概要になりますので、座長と事務局で内容を確認させていただいて、なるべく早く皆様にお届けした方がよろし

いと考えています。

方法につきましては、初声地区も含めた市内の小中学校のご家庭にお配りします。また説明会で市内の幼稚園や保育園の保護者にも配布したほうが良いというご意見があったため、これから小学校に進学するご家庭の保護者に対してもお配りします。合わせて、三浦市のホームページにも掲載するという手順と方法にしたいと思っています。以上でございます。

◇座長 ただいま事務局より説明がありました、この件につきましてご質問・ご意見がございましたら、お願い致します。

◇事務局 一点だけ。小中学校の保護者への通知についてです。こちらの紙ベースで配布しますが、三崎地区の協議会の中で、紙ベースでは読まない方も中にはいらっしゃるというケースもあるため、各学校からメールで案内するためのマチコミメールというのは、ほとんどの方がご登録されているため、そちらも併せて用いて、情報を提供した方が良いということになりました。基本的には議案に書いてあるとおり紙ベースですが、補完としてマチコミメールでもお知らせしたいと考えております。

◇座長 学校から安心メール的なものを各家庭に連絡する際のメールを配信するシステムを各学校が導入しているものです。それをを用いるというご意見でございます。これは第1号から掲載するということですか。

◇事務局 はい。その予定でございます。

◇座長 第1号、第2号とこれから先に発行される内容を掲載するとのことですか。

◇委員 その都度ということですか。

◇事務局 そうです。

◇座長 なければ、お諮り致します。

◇座長 「第2回以降の協議会ニュースの発行手順について」は、原案のとおりとすることにご異議ございませんか。

(「はい」の声)

ありがとうございます。ご異議なしと認め、そのように決定致します。

◇座長 それでは、意見交換に入っていきたいと思えます。

前回の会議録をご覧になり、お分かりかと思いますが、前回は学校教育ビジョンの説

明ということでした。この会議の場で学校教育ビジョンのご質問、ご意見がございすかというお話をさせていただきましたが、短時間でやり切れないということでした。その都度、確認ということになりますが、共通の土台に皆様が乗って議論をしていかなければ收拾がつかなくなってしまう。この学校教育ビジョンの確認が大切な部分であるため、本日はそのことが議題であると考えています。

1ヶ月間、学校教育ビジョンをご覧になり、何かご意見、ご質問などはございすか。

◇委員 よろしいでしょうか。今、小学校と中学校と合わせ、小中一貫教育というお話を頂戴しています。現状、小学校ですと6年をビジョンに教育内容や学校の方針を立てていると思いますが、こちらは小中一貫になった場合でも教育方針も変更になるビジョンでしょうか。

◇事務局 大きな目標はおおよそ3段階程度設定されています。一番大きなところは小学校と中学校で共通にするということです。すでに初声小学校と初声中学校においては共通にして取り組んでいるところです。もちろん、下の段階になってきますと発達段階に応じることになりますので、差異が出る場合もございす。それらを含めて、今年度から初声小学校及び初声中学校において小中一貫の先進的な取り組みとして、どうあればよいか確かめている状況です。そして、その成果を還元していくということです。以上です。

◇座長 よろしいでしょうか。学校教育目標については、ずっと変わらないということではなく、校長の学校経営のビジョンになりますので、毎年、見直しを図っているところです。よって今後は今回の学校教育ビジョンを意識しながら進めていくということになります。また、小学校、中学校の校長同士で協議会などを持ちながら、南下浦地区であればどのように子どもたちを育てていくのかという話は絶え間なくしています。中々、頻繁に変えるものでもございせんので、協議をしながらということになると思います。

◇委員 幼稚園や保育園にも協議会ニュースを配布するというお話でした。実感がないお宅が多いということで、これから先のことを考えると少々、他人事であるという人が多かったです。逆に言うと祖父母世代には孫がいる人がいて、先日の会合があり、そこを通じて三浦市では現在、このような協議会があるということ話し、もし三浦市内に令和7、8年に小学校に進学するような孫がいる場合は意見を聞いて、伝えてくれればこの協議会に伝えるという取り組みを行いました。

もう一点、要望としては一番、問題となってくるのは交通面であり、その部分をしっかりとしてくれれば、子どもが少ないため小中1校になったとしても致し方ないとの意見もあったとのこと。

◇委員 協議会ニュースを見て、興味を持つ方がいれば意見も出てくると思いますよね。

◇座長 地域でこのようなご意見をいただけるというのは非常にありがたいです。是非、

よろしくお願い致します。

今、交通の問題について挙がりましたが、この後の論議の焦点になると思いますので、交通の面について念頭におきながら、学校教育ビジョン全体の確認ということで進めていきたいと思います。

◇座長 前回の会議録の 11 ページに書かれている内容で、この協議会に対する検討事項として、三浦市としては南下浦地区の小学校は1つに統廃合し、一定規模にした方がよいという考えを学校教育ビジョンで示されております。まずはこちらにご賛同いただけるかどうかということがあるかと思います。ここの部分が一番、確認をしたいところでございます。この辺りのことについて焦点を絞っていきましょうか。小学校を統廃合していくという方向性で考えていくための協議会であることの確認に関してはいかがでしょうか。

◇委員 現状、三浦市の小学校は8校中5校が単学級で、どこまでが小規模かという話になると色々な話があります。この間、学校として小規模の良さでやってきましたが、その先の話となると、サポートにしても物理的に難しいような小規模校になったときには、解決していくべきことだと思います。

次に、様々な意見の中で4校を1回で1校に統廃合してしまうのは乱暴ではないか、段階的に行ってはどうかというご意見がありました。しかし、それをやったときに義務教育の9年間の中で2回、統廃合を経験する子どもがいるのは大きな負担になると思います。もし、段階的になるとしても懸念されることがないような手立てを考えていかなければと思います。

統廃合については致し方ないと考えております。

◇座長 ありがとうございます。ご意見として承ります。

段階的にということも一つの焦点になるかと思います。このことも交通の問題と合わせて置いておきます。統廃合はやむなしというご意見ではあります。

◇委員 私も個人的に1学区に1中学校、1小学校、これは人口減少と子どもの減少、三浦市は子どもが多いですが現状を見ると、新しい子育て世代がどれだけ入ってくるかわからないです。このセンターで子育て世代を募集するといっても突然、増えるわけでもないですし、受け入れる体制もあるから、一度に1,000人や2,000人増えるわけではありません。その後のことを考えたら現実的に1中学校、1小学校というのは止むを得ないと思います。私はその方向で話を進めたほうが、この学校は人数が少ない、入学者がないから、こちらの学校に通うとか、逆に議論にならなくて良いという意味では賛成です。

◇座長 ありがとうございます。私は子育て世代にも魅力的な三浦市でありたいということで、どのようにしていくのが良いかというのが方向性だと理解していきたいと思います。

◇委員 開発などによって人口増が認められる地域というのではないのでしょうか。三浦市全体のこれからの開発によって。人口増による児童生徒数の増というのはどのくらい見込んでいるのですか。

◇事務局 都市計画において市街化区域と市街化調整区域というものに分けられています。市街化区域の今後の拡大という部分については相当困難です。そうしますと、現在ある市街化区域の再開発というようなことになるかと思えます。

現在、南下浦地区においてそのような計画はございません。市街化区域の拡大ということについても南下浦地区の計画はございません。

◇座長 タワーマンションなどができると一気に増えると思いますが、そういう計画は無さそうということです。

◇委員 人口増が望めないということでもよろしいですね。当然、人口増がなければ子どもも増えませんし。

駅前の京浜急行電鉄の空き地があると思いますが、あのような場所に昔、タワーマンションができるという話がありましたが、それはもうあり得ないということですか。

◇事務局 今はそのような計画はございません。地域によっては三崎の下町は空いてしまっている土地がありますので、そこは何かしらで埋まってくるとは思いますが、南下浦地域にはそういった空いた土地がほとんどない状況です。

◇委員 もう一ついいですか。現在、上宮田県営住宅ですが建て替え計画が決定しています。今、コンサルティング業者が決まり、これから物事が動いていきます。実際、現時点での住人が建て替えるときに一度に引っ越しすることはできないため、聞いている話だと一部を取り壊し、他の空いている棟に引っ越して、入りきれない住人は近隣の県営や市営の住居に入ってもらう計画です。基本的に既存と同様の5階建てで、エレベーターが付いた建物になります。

突然、子どものいる世帯が増えるという状況にはならないと私は見込んでいます。

◇事務局 おっしゃるとおり、人口増が望めるような大規模な開発計画はありません。ご存知のとおり、この場所に子育て賃貸住宅というものを計画しておりますが100戸、200戸とあるわけではないため、そういったことも見込んで、もちろん人口が増えることは望ましいことではあり、今後、状況が変化するということがゼロではありません。しかし、現時点で早めに学校をどうすればよいかということを考えなければなりません。

◇委員 個人的にも1歳になる子どもがいて、将来、関係するところです。一番負担になるのは通学中の児童だと思います。私もどのタイミングで統廃合されるのかが一番、関心があります。私たちのイベントでも南下浦地区の4校の小学校が最初は2校の小学



校でも良いのではないかというご意見を述べていた参加者の方もいました。しかし、その場合ですと、どこかのタイミングで1校になってしまう未来が見えるため、児童に2回、負担がかかってしまうのは良くないと思います。

移住者からの視点で見ると、三浦市に引っ越してくる時に三浦市の小学校は全て単学級しかないのか、そのような視点で子育て世代が引っ越してくる時に踏み止まってしまうことも思っていて、そういう意味では単学級だけではない小学校の選択があるということは個人的には良いと思います。

◇座長 ありがとうございます。移住される方にとっても魅力的な形になるのではないかとご意見を承りました。

他はいかがでしょうか。

◇委員 よろしいですか。教育ビジョンの中に小中一貫教育の目的で三浦市の良さを活かした教育のかたちの題目がありました。この中の一例として海洋教育に力を入れていただいて、各学校で特色のある例えばウニがキャベツを食べるなどのことです。小中一貫になり人数が増えることにより、その教育に対するメリット、また今度は違った農業などを教育するビジョンはございますか。

◇事務局 確かに今は各小学校、特色ある海洋教育を行っていただけていると思っています。それは地域の方々のご協力がありできているもの、それ以外のみうら学ということで農業の勉強ですとか、そういったものができているところだと思っています。そちらが、小学校4校を1校に、3校を1校になった場合、学区が広域になることによって途切れてしまっただけとはいえないと思っています。漠然とした言い方になりますが、同じ協力ができている学校が1校に集約されることで、また違った体験ができたり、そういったことは続けていかなければならないと思っています。その件について教育委員会も協力しながら、地域と繋がっていける仕組みづくりのようなものも併せて行っていくことで、未来に続いていくような海洋教育などのみうら学が作られていくようにすべきだと考えています。

◇座長 海洋教育という海だけに限ってしまうと、ちょっと中学校としては取り組みにくいこともありますから、私たちはみうら学・海洋教育という呼び方をしています。

みうら学ということになればあらゆるものが海に繋がっていくというのがあり、三浦オリジナルの地域素材を活かした学習ということであれば、中学校でも様々な取り組みができてきます。ただ、残念なことに小学校で今、取り組んでいることと中学校で取り組んでいることの連携がうまく取れていないため、なかなか難しいと個人的に考えています。ですから、その部分が上手く繋がっていく、つまり9年間のみうら学・海洋教育のカリキュラムに何とか手を付けていきたいということで、みうら学海洋教育研究所というものも設立し教育委員会のバックアップを受けながら取り組んでいるところです。小中学校が一緒に行っていくということになれば、そのところが加速していくと想定できると考えています。

◇委員 市内の小学校4校が統廃合すると、今、それぞれの学校の学区というのが広がるわけです。そうなったときの教材というかそれぞれの学区にある学ぶ海や畑などが広がるということで、とても豊かな海洋教育ができるのではないかと、ということが想像できます。

◇座長 期待も高まるということですね。

◇委員 一つ心配していたこととして、地域が広がってとても良いことだと思いますが、教育委員会の人たちが言っていたように、住民と手薄になってしまうことについても間に入り、濃密にやることに対して返答いただいたので見守っていきたいと思います。

◇座長 そうですね。地域との繋がりをどのように維持していくかですね。

中学校は南下浦中学校区の大きなところにいますので、中学校としての地域の繋がりを私も非常に意識しています。中学生ですから活動範囲が広がりますので、その中のそれぞれの良さと組み合わせていくことは常に考えていくところですね。

その他、学校教育ビジョンについていかがでしょうか。

◇座長 事務局からも小規模校、少人数学級について少し整理をした方が良いということで資料が用意されています。こちらを単純に小規模校と言ってしまったときに、例えば児童が41人になると2クラスに分けられ、20人と21人のクラスになります。ところが40人ですと1クラスで運営することになってしまいます。これは文部科学省の定数で決められていることで、こちらの意見で何とかなるというものではございません。これらのことから文部科学省では少人数学級の導入などを出しているところです。

例えば協議会ニュースに記載されている新入学児童数を見ていただくと、令和6年度において南下浦小学校17人、上宮田小学校29人、旭小学校30人、剣崎小学校7人、全て単級にはなってしまいます。要するに30人の1学級であるところと、7人で1学級である少人数のところをどのように見ていくかということです。これが合わさっていくと南下浦地区で合計83人であり、30人程度のクラスが3つできるというイメージです。そのことに関することも事務局で資料を作成してもらっているので説明をお願い致します。

◇事務局 まず、資料3として用意しました小規模校と標準規模校の比較について、こちらは一般的に捉えられているもので、単学級の学校であるところといった弊害が生じる可能性があり、逆に良いところは何々であるという部分を抜き出したものです。現在、三浦市の単学級の学校1クラスの人数が少ない学校がこちらに記載されている悪いところと表現してしまいましたが、このような状況に陥っているという意味では全くございません。こちらの表現に関して至らない点があったと思います。こちらについては十分にご承知おきいただければと思います。

一般的にいうところのこういったメリット、デメリットが出てくる可能性があるといわれて

おります。その状況下でどうして今、単学級や児童数が少ない三浦の小学校でこのような問題が生じず、反対に良い学校になっているかという学校の管理職の先生、教員の方々が非常に努力をしていただいて色々な児童との繋がりですとか、児童同士の繋がりをできる機会を設けていただいているからこそ実現できていることだと思っています。ただ単に何もしなければ様々な弊害が生じてくる可能性があるというところですよ。

なぜそれが今できているかという、三浦の先生方の持っている力が高いことに依存している部分もあると思っています。教員の方々の大きな力で何とかなっている三浦市の学校も、このままほとんどが小規模校になってしまった状態で運営していくと、徐々に学校に疲弊が生まれてきてしまうのではないかと考えています。今まで教員の方の力の蓄えがあったというのも、いくつかの単学級を経験された先生が小さな学校に赴任し、力を発揮してくださったこと、ベテランの先生の配置もあったと考えています。

そのほかに、学校には標準的に配置される教員の方、さらに神奈川県予算を利用した加配というものも行われています。これは神奈川県予算の範囲内で行われておりますので、今、加配を利用してきめ細やかな教育をしておりますが、それは予算に非常に左右されるもので、現実的に予算が徐々に減ってきているという話もございますし、今後も継続されるのかということも不安材料の一つであると考えております。1学年に複数学級であれば、その加配がなかったとしても一つの学校に勤務する教員の方が物理的に増えるということになりますので、教員が力を蓄えることにも繋がる可能性があると考えているところです。単純に小規模校がいけないという訳ではありませんが1学年複数学級の学校になれば、もう少しできることや先生方の負担が少しずつ減ったり、色々な問題があるにせよ子どもたちが成長できるような教育が今と同じように今後も提供することができると考えているところです。

◇座長 現実的に剣崎小学校が少人数でさらに単学級である状態で行われているところではありますが、今、教員の力に頼っている部分があるとのことですが、どんな工夫をされているのでしょうか。

◇委員 おそらく市内で一番小さい小学校ということで、今回のビジョンを考えるうえでも一つのポイントになってくると思います。現在、児童数は63人であり、今年度新入学児童はいませんでした。よって第2学年から第6学年までで63人です。クラスの人数は1クラス、10人から17人という状況です。

いろいろと人数が少ないとデメリットが多いと言われますが、少なくとも剣崎小学校に関わらず三浦市内どこの小規模校についても人数が少ないことのデメリットで保護者や子ども達に不安を与えるような教育は一切しないこと、安心して子どもたちが通える、保護者も安心できる教育活動を必ずやり遂げていく、そういう気持ちでそれぞれの学校は行っているところです。その中で当校でということあれば現在、コロナの状況で少し変わってしまっているところがあるうえで、授業において人数が少なく困るのではないかとよく言われます。しかし、例えば2学年合同で行うことが可能な図工や体育の授業を合同で行うことによって、人数が増えるということは子どもたちのお互いの色々な

表現を見合う場というのが増加します。さらに学年が違う子どもたちが混ざることによって、教え合いの場ができるということもあり、その関係を構築するためには人数が多くなればなるほど中々難しくなります。そのような交流は積極的に取り入れながら、子どもたちの人数が少ないから困るといったことは取らないようにしています。人数が多くなると中々取り組めないと言われていた遠足なども色々な学校でそうですが、全校遠足に取り組んだり、当校では保護者向けの発表会では全学年で一つの劇を作って一人一人が意欲を持って取り組めるようになっていきます。また、当然ですが 63 人の子ども達でありますから、子どもたち同士はもちろん職員も含め顔と名前が一致し、どのような人間であるかも把握しています。何かがあったときにも子どもたちも含めてすぐに対応できる環境でもあります。もしかしたら大きな学校では不可能と思われることが、かなりの部分で実現できているということが言えるのではないのでしょうか。

そういった意味で今回、出していただいた資料については一言、申し上げたいことがございます。この資料の出し方について事務局より説明がありましたが、クラスの児童数が少ない学校、つまり例えば剣崎小学校です。悪いところと書かれてしまうと少々残念な思いです。私たちはもしかしたら一般的にという部分があるかもしれません。けれども、諸々のデメリットで子どもたちが困らないような取り組みを目指してやってくる状況下で、説明があればこの協議会の参加者は理解できますが、例えばこの資料が公表され、資料だけが出回ったときに、それに係る説明をしっかりと付けていただかないと剣崎小学校はこんなに酷い学校なのかというように、今、通わせている保護者やこれから入学を予定している保護者の不安にしか繋がらないと強く感じています。よって、是非、教育委員会の方たちにはこの資料が独り歩きしないような説明をしっかりと付けたうえで公表をしていただきたいと思います。

もう一点、皆様にお話しをしておいた方がいいことは小規模校には小規模校の良さがあり、安易に規模の大きさだけで学校の良し悪しは決められないということは是非、お分かりいただきたいと思います。確かに学校の規模が小さいがためにできないこともあります。しかし、規模が大きい学校と比べ、決して劣っているという見方をしてしまうと非常に浅いところだけで統合をするという話にしかならないと思っています。もし、統合して一緒に学校になるにしても小規模校で培っている子どもたちに手厚く接していくこと、子どもたちの関係を様々な方向から作り上げていくことなどの良さは必ず引き継いでいく必要があると考えています。何が何でも大きな学校の良い部分に合わせていく考え方ではない方が良いと思います。

最後にそうは言っても今年度、当校の入学児童は0人です。これまでも入学する児童が非常に少ない状況はありました。その都度、私自身、保護者より子どもが少ないことについて不安の相談を受けることを繰り返してきました。私たちは「安心してください」ということをお話しします。ただ、ご自分の子どもが本当に入学児童が一桁の学校に入学するとなったときの保護者の気持ちは、自分の子どもが入学する保護者でないと分からないと皆さんは述べています。このようなことから、確かに私たちは1人でも入学者がいれば安心して教育活動を受けることができると胸を張って言っていきたいところです。しかし、保護者の不安は様々で、それだけでは払拭できないものもあると実感しており、何かしらの対応を考えなければならない時期にきていることも併せて感じてい

ます。

◇委員 保護者として述べたいと思います。うちの子どもは学校に行きたいと言って楽しそうにしています。私自身の時代と明らかに違うのは、校長先生、教頭先生とは卒業まであまり話したことがない状況でしたが、今の子どもは管理職の先生方とも友達感覚というか身近に話していて、それはそれで良いことだと思います。一方で人数が少なすぎるとするのはどうすることもできないと思いますし、下校時に一緒に帰る子どもがいないこと、かつ通学が長距離であると心配してしまう保護者もいると思います。統合したとしても、このような1人になってしまうケースもありますが致し方ないと考えています。そして、剣崎小学校はバスで登校している児童が多いですが、統合により通学距離がさらに長距離になるのかどうなのか皆さんが気にしていることだと思います。バスに慣れている児童は多くいますが、今より長距離になると統合に反対する意見より金銭面での負担が多くなるのではとの意見が多いです。

私は子どもが楽しそうに学校に行っていることから、児童数が少ない学校が悪いと感じませんし、良いことが多いと思います。

◇座長 ありがとうございます。我々、教員は与えられた環境で最大限の力を尽くしていくのが職務であり、児童数の多い少ないで良し悪しを考えることはありません。子どもたちを見ながら、子どもたちのために私たちができることは何か、必死になってやっています。児童数が多いから良い、少ないから悪いということは一切なく、三浦市の全教員は誇りを持って教育活動にあたっています。

◇委員 客観的に見させていただいて校長先生や保護者の教育の良さを感じました。剣崎小学校の児童達の挨拶は本当に良くできています。会うたびに笑顔で挨拶をしてくれることが気持ち良いです。

◇座長 ありがとうございます。大人との信頼関係をどのように構築するかの成功例ですね。

◇委員 保護者の団結も強いと思います。

◇委員 児童の挨拶を聞かせてあげたいくらい本当に気持ちが良いです。

◇委員 保護者の話でこの前の運動会があり、私も剣崎小学校でしたが周りも一緒に剣崎小学校に通っていた人だらけでした。つまり嫌ではないから出ていかないのかなと思います。どんどん都会に出たりとか、人それぞれですが、良いところはあると思います。

◇委員 私の記憶違いかもしれませんが、昔の文部科学省の基準で小規模校、適正規模校、大規模校のクラスについて、1クラスから6クラスまでが小規模校、7クラスから12が適正規模校、それ以上が大規模校であるという定義はありますか。

◇委員　まだ基準は残っていると思います。その当時にいわれていた大規模校が3分の1、適正規模校が3分の1、小規模校が3分の1くらいの割合であったと確か記憶しています。

◇委員　確か小規模校というと1クラスから6か7クラスだったと思います。こちらの資料に書かれている小規模校のメリットデメリットは一般論ですよ。何回も読み直しましたが一般論であり、剣崎小学校など特定の学校について事務局が述べたものではありません。

◇座長　そのとおりです。

◇委員　確かにメリットとデメリットを比べると、この前の教育長の話から比較するとデメリットの方が多いため統廃合するニュアンスのことをおっしゃっていたと思うのですが。確かに小規模校は多くのメリットがあると思いますが、三浦市の現状では保護者などにアンケートを取り、1学年2クラスが望ましいという結果もでているわけですよ。そういう意味も含めて今、統合に向かってこの協議会を設けていると思うのですが、小規模校を残すということは現状では三浦市学校教育ビジョンから言ってしまうと難しいのではないのでしょうか。小規模校のメリットを活かしてこのまま継続するということは、確かに運動会ができない、クラス替えができないなどのデメリットが小規模校にはあります。他方、表に出てこない個別指導などのメリットも多くあると聞いています。

ただし、どうしてもメリットとデメリットを比べてしまうとデメリットが多くなり、そういう意味では将来、子どもの教育を考え、適正規模校にするには統合しかないという考えが三浦市学校教育ビジョンだと思っています。

◇委員　私の言葉が足りなかった部分があると思っています。是非、小規模校を残してくださいと言っているわけではありません。もし、統合して4校が1校の小学校になったとしても小さい学校で培った教育のノウハウは是非、活かしてほしいということです。そのような統合であれば良いなと感じているところです。

◇委員　私も今、委員が述べたことが言いたかったことであり、教えたクラスが12人の時がありました。いわゆる少人数です。12人だからこぞできることを私は大切に、1年間やってきました。その後、別の小学校で偶然、27人いる同じ学年を持ちました。そのときに12人のときと同じことができなかつたかと言われれば、できることがあります。そこで一人一人きめ細やかに見ていくことが27人でもやってやれないことはないなと思いました。全て根性論でできると言いたいわけではありませんが、小規模校が多い状況の中で、小規模校を存続させた方が良いのではないかと、大切ではないかという声もあるくらい魅力的な学校を作ってきたわけです。そこで作ってきたものは何だったのかという積み上げを今後、是非、仮に統合したときに1つでも多く補完できれば、それこそが三浦市らしい教育の売りの一つになる可能性を感じています。

◇**座長** 今、剣崎小学校のお話になりましたけれども、小規模校といわれている旭小学校、南下浦小学校の先生方も子どもたちの力を最大限発揮できるような取り組みを十分行っています。そのようなノウハウがさらに活かされるような形にしていくための三浦市学校教育ビジョンであり、デメリットを解消するためだけではなく、こんな素敵な学校ができるのではないかと夢を語れるような協議会になれば良いなと思っています。

◇**委員** そういう熱い思いをもった先生方が色々な小学校に散らばっているわけじゃないですか。1校に集まり、そこで様々な意見を直接出し合って、今よりもより良い学校ができれば一番良いのではないのでしょうか。学校の先生方は思いも高く、一生懸命やっていたらと思っています。その先生方が現状として色々な学校に散らばっていて、中々、一つに集まってお話しする機会もお忙しいですからないと思います。それが1校に集まれば隙間時間でも教育について、お話しする時間が今より増加すると思いますので、他の市の学校よりも良い学校が三浦市にはできると期待しています。

◇**委員** 行事の関係で少し述べさせていただきます。運動会についてですが、初声小学校、初声中学校の人たちに色々なお話を伺っているのですが、その中で初声だけ特殊な方法で運動会を開催することになり、保護者の中では困惑しているという意見を頂戴しています。それについて例えば、初声小学校の保護者の方々には理由のご説明ができています。それについて例えば、三浦市学校教育ビジョンに関心をもっている人たちからすると、感染症などが流行したとき一緒に見るができなくなってしまうような不安が結構あります。それに関する事で何かあれば教えてください。

◇**事務局** 保護者の皆様からアンケートを取って、それを返却しています。保護者の方の意見を今回、丁寧に受け止めた結果、初声小学校の運動会は開催するけれども、子ども達だけで行い、保護者の方は学校側で用意した動画や写真で後から楽しんでくださいということになっていたかと思います。その根底には市内の小学校の中では初声小学校は児童数が多い方であり、それぞれのご家庭の父母、祖父母、近所の叔父叔母などの構成人数も多いためと思われまます。制限なく運動会の来場を促した場合、つまり例年通りに開催した場合、高密度になってしまう恐れがあるため、感染を心配される保護者の方も相当程度います。その中で他の学校以上に高密度の状況というのが十分に受け止められていたため、今年のような開催方法になったと思います。来年以降につきましては、学校側が保護者の声を受け止めながら行うこともありますし、コロナの状況がどのようになっているか、またワクチンが開発されているか不確定要素によります。それから、例年では運動会は春に行っていましたが、その点についても検討しようと思っています。今年では休校期間中であつたため春に運動会はできませんでした。通常のスケジュールでは運動会の開催は不可能であつたため、秋に行くことにしました。これらのことを踏まえ小学校の生活を考えていかなければなりません。教育委員会もサポートしていきたいと思っています。

◇座長 コロナ対応についてはあまりにも初めての経験で思うところ、感じるころはありますが、色々なノウハウが蓄積されたところもあります。初声中学校は保護者を入れた運動会の開催はできています。小学校では、保護者からのアンケートで聞いた中での対応をされたと認識しております。

◇委員 分かりました。

◇座長 お時間もそろそろ迫ってきました。学校教育ビジョンに関することではよろしいでしょうか。

◇委員 資料3に記載があるデメリットというのは大規模な学校にも起こり得ることなのかと思います。三浦市学校教育ビジョンを否定するつもりはないですが、先程、皆さんがおっしゃったように家庭の方が大切かなと思いました。例えば、今後、統合する場所、通学方法などを決定していくとき、保護者の方たちが安心できるよう、その部分を先に発信したほうが良いのではないのでしょうか。

◇座長 保護者の安心が一番だと思います。

◇委員 全くそのとおりであり、皆さん心配していることはどこの学校になるか分かりませんが、通学に関することです。そうなったときにはスクールバスとか運行してもらい、入学したての1年生に遠距離の学校に通わせるのは親として非常に不安があります。安心して通学させることが大切だと思います。

◇委員 私が学校に通っていたときは中学校でいえば7クラスでした。メリット、デメリットもたくさんあったと思います。ところが年々子どもが減り、私の下の子のとき小学校の同級生は3人で、今は中学生です。現在はコロナの影響もあり通学も少なかったようですが慣れてきて楽しく学校も行っています。また、児童数が少ないといっても先生の負担も考えてもらった方が良くもかもしれません。子どもが楽しく学校に行ける環境であれば良いと思いますし、地域の目配りなども地区が広がると一層、大切になってくると思います。

◇座長 ありがとうございます。ご意見が尽きませんが、そろそろお時間です。三浦市学校教育ビジョンで示されている方向性について基本的に賛同したうえで具体的な課題が出ております。例えば通学のこと、地域の繋がりのことなどに対して様々な意見を出し合いながらこれからの協議会を進めていきたいと思っております。

◇委員 最後に一つ確認ですがよろしいでしょうか。先程、委員がおっしゃった、この良いところ悪いところの協議の仕方を変えていきただけで悪いイメージが付いてしまいます。そこは是非、私もお願いしたいと思います。



◇座長 今、文言出ますか。

◇事務局 そのことについては、私どもも重く受け止めておりますので、しっかりとした形、弊害がないような形にしたいと思います。

◇座長 資料のところを手を加えながら公表されるか、配慮しながら進めていくということですね。

前回の議題でアンケートを実施しませんかというご意見が出ていまして、事務局が持ち帰り検討するとなっていました、そのあたりの見解はいかがですか。

◇事務局 前回の協議会から持ち帰り検討したところ、実は三崎地区で行いました説明会の中で、この件に関することを自分事のこととして捉えられてはいただいています。ご自分の子どもが通っている間は、私たちからすると少し将来を見据えたご意見を持っていただいている印象を受けました。やはり、将来を見据えたビジョンに関するご意見ですので、そういったことが払拭できないと中々、アンケートをした場合に長期的な視点で捉えた意見が出てこない可能性もあり、もう少しアンケートについて実施するか否か検討したいと思っています。

◇座長 ありがとうございます。現状、本当に先生方が頑張っているところや保護者の方の頑張りのもありますので、この状況がすごく居心地の良いところがあります。よって、変化させる必要がないという部分があると思います。ゆえに、未来を見据えてこんな素敵な学校が作れるのではないかとこのところで話を進めていく三浦市学校教育ビジョンに則ったかたちでの協議にしていくべきかと思えます。そのあたりの夢を語れると同時に考えられる課題をどのように解決していくかの協議を進めていくということで本日の協議をまとめさせていただければと思います。

長くなりましたが本日の意見交換はこの程度にさせていただきます。

◇座長 つづきまして事務連絡を事務局からお願い致します。

◇事務局 次回の協議会は事前にお伝えしているとおり 11月27日(金)19時から1時間程度を予定しております。場所も同じく南下浦市民センター会議室です。事前に資料などは座長と調整のうえお届けします。次回も皆様、ご参加くださいますようお願い致します。

◇ 20時15分 閉会 ◇